

春風秋霜

10月号

令和7年10月22日
島田市教育委員会だより
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一齋

1 ノーベル生理学・医学賞を坂口志文氏、ノーベル化学賞を北川進氏が受賞

令和7年10月6日に、2025年のノーベル生理学・医学賞を大阪大学の坂口志文特任教授に授与する、という発表がありました。皆さんもテレビや新聞でご覧になったかと思いますが、坂口先生は、体内の過剰な免疫反応を抑えるリンパ球の一種「制御性T細胞」を発見したことによりノーベル賞を受賞することになりました。この発見は、アレルギーや自己免疫疾患などの治療、がん免疫療法、臓器移植後の拒絶反応に関する研究に発展しているということです。

また、次の日、10月7日には、ノーベル化学賞を京都大学の北川進特別教授に、授与するという発表がありました。北川先生は、金属と有機物を組み合わせた「金属有機構造体の開発」により、ノーベル賞を受賞することになりました。無数に開いた微小な穴に物質を出し入れできる新材料を作成することによって、昨今、話題になっている二酸化炭素(CO₂)を回収する吸着剤としての働きをすることができ、環境分野への応用が期待されています。この研究は「環境やエネルギー問題に新たな道を開いた」という功績が評価されたということです。

お二人には共通点があります。二人とも京都大学で勉強をされ、京都大学の大学院研究科博士課程で勉強をされました。坂口先生は、医学を勉強され、北川先生は、工学を勉強されています。よく言われることですが、京都大学では基礎研究をしっかりと時間をかけて勉強した上に、自分がやりたいことを追究し、その結果がノーベル賞受賞につながっているのだと思います。

お二人がノーベル賞を受賞されたときの会見を聞かせていただきました。どちらも、様々な苦労をされてきた研究者なんだということが分かりますし、自分の信念を曲げずに研究されてきたことが、ノーベル賞受賞につながっているということを感じました。

お二人の会見の中で、子供たちに向けたメッセージがありましたので、その部分を伝えたいと思います。

坂口先生の会見では、「『ノーベル賞の受賞者を見て、将来科学者を目指す子供たち、将来の科学者の卵に向けてどういう言葉を伝えたいか』という質問に対して『世の中には、面白いことや興味をそそることがたくさんあると思います。それはお稽古事でも良いですし、スポーツでも良いと思います。また、我々がやっているようなサイエンスでも良いと思うのですが、興味を持続させて色々な試みを続けていると、興味もより強く洗練されて強くなっています。それをずっと続けていくことによってまた新しいものが見えてくるし、自分の中でそのような興味がだんだんと形がはっきりとしてきて、気が付いたら新しい境地に達してくるというようになり、どのような分野であっても、面白いと思います。』」

また、北川先生の会見では、「子供たちに、細菌学の父であるルイ・パスツールは

『幸運は準備された心に宿る』という名言を残しているという話をされました。良い先生に恵まれ、良い友達に恵まれ、そして色々な付き合いを大切にすることによって、いつか華が開くための準備をしている。だから、今、色々な経験をして華が開くのを待っていてほしい。』という思いを話されていました。

基礎研究を大事にすることによって、これからも日本の科学技術の発展が期待できます。その為には、島田市が進めている探究的な学習の充実が大切だと思います。

肘かけ椅子

「島田大祭に参加して」

社会教育課長 佐藤 正己

この度、10月11日（土）～13日（月・祝）の日程で開催された「第111回 島田大祭」に参加しました。

島田大祭は元禄八年（1695年）に始まり、今年で333年目の節目を迎えました。3年に一度、巳年、申年、亥年、寅年に衣装ぞろえを含め4日間開催される歴史あるお祭りで、優美な大奴や鹿島踊り、各街の屋台の引き回しなど見所たっぷりです。今回は初日こそ雨の影響で一部予定変更となりましたが、残りの2日間は大きな変更もなく無事開催されました。

今回私は踊り子係として参加しました。踊り子（5～8歳）が、屋台の上で歌舞伎の演目を躍る際、かつらや衣装替え、道具の出し入れをサポートします。また踊り子係が大変なのは、踊り子を歩かせたり地面に降ろしたりすることはNGなため、屋台に上げる時や次の場所までの移動の際には青年が担いで行かなければならず、体力を消耗します。

島田大祭は青年（18～45歳）が主体のお祭りで、私はそれをサポートする中老として参加しましたが、年々少子高齢化等の影響で参加者が少なくなり、今では中老もサポートではなく、青年と同じように屋台を引いたり踊り子のお世話をしたりするようになっています。

私は子どもの頃から参加していますが、昔からこの街に生れたなら当然参加するものと思い込んでいたため、何の疑いもなく参加していましたが、今はその考え方も古いようで、人口が減少していく中、参加を断る青年が増えたことも参加者減少に大きく影響しています。

祭りには色々な伝統、しきたりがありますが、時代の変化とともにその伝統を守ることが難しくなってきています。昔と比べて気温も上がり、30度近い気温の中、屋台の綱を引いたり踊ったり。また、昔のような厳格な上下関係も、今の時代には受け入れにくいものになってきており、スタイルの変化が要求されておりまます。

時代に合ったやり方に変えていくことは必要だと思います。が、忘れてはいけないのが、これまで築き上げ、継承してくれた先人に対しての敬意です。時代に合わせることも必要ですが、先輩への感謝の思いを忘れず、伝統を守るために新たな挑戦に取り組むことが大切です。守るべきことは守りつつ、祭りが楽しくて皆が参加したくなるような姿になっていくよう期待しています。